

西來寺報

二〇一六年 夏
第二十二号

前略

先般は前任職 大塚 甫 法名「自燈院釋甫圓(じとういんしゃくぼえん)」の葬儀に際しまして、御門徒の方々には御懇篤なる弔詞を頂き、又ご鄭重なるご香資を賜りまして、お陰様で無事葬儀を勤めることが出来ました事に、厚く御礼申し上げます。

合掌



さて、仏事としての葬儀とは、ひとりの人間の死という事実を、私たち一人一人が自分自身の問題として受け止めていくことであります。身近な人の死は、私たちの心をゆさぶり、今の日常が永遠に続くかのよう錯覚して暮らしている私たちに「やがては死んでいく身を、どう引き受けて生きていくのか」と問いかけています。ひとりの人間の死という重い事実を自分の問題として受け止めずに、ただ「冥福を祈る」ということだけで過ごすすれば、亡き人からの大切な問いを無にすることであり、自分のあり方を見つめ直す眼を自ら塞いでしまうことにならないでしょうか。



『仏説阿弥陀經(ぶつせつあみだきょう)』の中に「俱会一処(くえいつしよ)」という言葉があります。「俱に一つの処で会う」と読みます

「極樂浄土で俱に会う」ということですが、実は、お念仏申し浄土に往くことを願う人が、亡き人とともに出会うべくして表しています。亡き人は、先に浄土に往かれた方として私たちを導いてくださる人なので、「俱会一処」とは、頂いた、いのちを大切に、生涯を生きぬく思いをあらたにするよう、亡き人から導いてもらう、そのような願いとの出会いを表す言葉です。

「前(さき)に生まれん者(ひと)は後(のち)を導き、後に生まれん者は前を訪(とぶら)え、連続無窮(れんぞくむぐう)にして、願わくは休止(くし)せざらしめんと欲す。無辺(むへん)の生死(しようじ)海(かい)を尽くさんがためのゆえなり」と道綽禪師(どうしゃくぜんじ)の言葉のように、先人は後の人を導き、後の人は先人の導きを見いだすとともにひとつの世界にあることを見いだすのが大切なのでしよう。

2016年のお盆日程

新盆 7月8日

新盆経。当西來寺で過去1年間に亡くなられた方の家族を集めて法要をします。(該当の方にはご案内差し上げています)

お盆 7月13日～7月16日

東京地方、横須賀市中心部。

旧盆 8月13日～8月16日

月遅れのお盆。葉山、鎌倉方面 全国的にはこちらの方が多い。

募集 俳句を募集します

毎月28日におこなっている同朋会で俳句の時間を設けることになりました。御門徒の石井和江さんにご指導頂いています。石井さんは横須賀俳句協会の副会長で、NHKや市長賞等、多くの賞を受賞していらつしゃいます。そこで、西來寺報でも俳句を募集いたします。今号では、六月から八月の季語を入れてご応募ください。石井さんに選んで頂いた優秀者の句は次号に掲載させて頂きます。季語のリストをご希望の方はご連絡ください。送らせていただきます。(宛先)〒238-0051 神奈川県横須賀市不入斗町3-38 西來寺報俳句係まで

藍綬褒章受勲の門徒さん

御門徒の太田秀さんが藍綬褒章を受勲されました。藍綬褒章は会社経営・各種団体での活動を通じて、産業の振興・社会福祉などに優れた業績を挙げた方が受勲するものです。太田さんは25歳の時から46年間の消防団での功績により藍綬褒章を受勲されました。

—— 一番最初に消防団に入ったきっかけは何だったのでしょうか？

「町内会長の推薦もあって、ボランティアの気持ちで参加したのが始まりです。家具屋の商売をこの土地でやらせてもらっているのだから、



ら、消防を手伝おうとそういう気持ちだったなあ。昔は消防団にはサラリーマンの方とかは少なく、商店の人とか多かったんだけど、今は商店の人が少なくなって、消防団に入る人も少なくなってしまうんだよね」

—— 消防団の活動はどんなことをしているのか教えていただけますか

「最近だと火災予防週間に横須賀中央の駅前で広報としてティッシュを配ったり、皆さんの家庭にも火災報知機を付けてくださいと宣伝しています。汐入のショッパーズで、消防車や救急車の展示を消防署の人がしていたり、そういうイベントを色々やったりもしているんですよ。今は防火教育に力を入れていて、2か月で30カ所も幼稚園や保育園を回って防火について子供たちに話をしています」

—— 46年間も消防団を続けてこられた一番の理由はなんですか？

「まずは奥さん。うん、やっぱり家族の理解が一番だよ。商売やりながら続けさせてもらったのだから、色んな人に助けてもらっていて、そのお蔭で続けてこられました。ありがたいことですよ」

—— 奥様はご主人様の受賞を知った時、どんなお気持ちでしたか？

「喜ぶのは二の次で、どうしようって気持ちが強かったです。よかったねとは思いますが、皇居に行く日のことを考えると、どうしたらいいんだろうって。終わってみれば色んな人がアドバイスしてくれたり協力してくれて、皆様のお蔭で天皇陛下にお目にかかることが出来て、とても感謝しております」

—— 奥様から見て太田さんは一言でいうとどんな方ですか？

「正直で真面目な人ですね。お客様への対応や、友達との関係、子供と孫への接し方を見ているとそう思います」

—— 太田さんは西来寺の行事に、熱心に参加して下さって、いつも助けられています。お店に消防団にお忙しい中、よく時間がとって頂けるなど、こちらが不思議になるくらいなのですが…。

「西来寺さんのお付き合いは古くて、父が世話人をやらせてもらっていたんです。父の代からずっとお世話になっている。それだけに自分が出ることはやりたいなという思いが強いんです。できることはちょっとでも、時間が調節できるなら少しでも、そういう

のはもう性格なんでしょうね」

西来寺のお手伝いに来てくれる方の中でも、重いものを運んだり高いところに登ったり、率先して大変なことを引き受けてくれるのが太田さんです。きっと消防団の中でもそうなのでしょう。何に対しても真面目にコツコツ参加していく、大変なことをいとわず引き受ける。その積み重ねを大事に続けてきた結果が、今回の藍綬褒章の受勲という荣誉に繋がったのではないのでしょうか。周りの人への感謝の言葉と、いつも笑顔絶やさない太田さんとのご縁を、私どもも感謝し、学んでいきたいものです。



太田家具店は、どぶ板通りにお店を構える創業 88 年の老舗！